『西洋の書物工房』読書会　第20回

2016.10.20.

第六章　フランスの革装本

二　愛書家ジャン・グロリエ

＊愛書家　bibliophile　―　18世紀に登場

＊西洋の本の愛書家として必ず登場する

　この本『西洋の書物工房』のこの節以外にも

　・第五章　モロッコ革を求めて　五　フレンチ・モロッコ革：　“あの名高いジャン・グロリエやフランソワ一世の蔵書にモロッコ革の本が登場する。”

　・第六章　フランスの革装本　四　革装本の製本工房：　“グロリエの本に見られるよ

　　　うに、フランスの革装本は早い時期から背に装飾が与えられている。”

　・第六章　フランスの革装本　五　ロマン主義の革装本：　“ジャン・グロリエの蔵書

には背バンドのあるもの（ド・ネール）と背バンドのないもの（ド・ロン）の両方が存在する。．．．”

　・第七章　天金と小口装飾　一　天金とテンペラ画：　“グロリエの本に見られるように、革をはった本の表紙に金箔の線を走らせたり、金箔の花型模様をつけたりする技術の発展なしに、天金箔の確立はありえない。”

　・第九章マーブル紙と見返し　三　見返し考：　“また十六世紀前半の革装本の代表的な作品にジャを

　以上の箇所に登場

＊『世界大百科事典』平凡社　にも記事あり

　“<ジャン・グロリエとその友らのもの　IO.GROLIERII ET AMICORVM>の銘文を入れたものである。中略　3000冊はあったといわれるグロリエの蔵書は約500点しか現存しないが、これらの制作年代はほぼ50年間にわたるものであり、ルネサンス期の装飾様式のすべてを見ることができるといわれている。”　栃折久美子

\*Les fragments de M　のブログ　<http://www.frgm-reliure.jp/miracle_world_9/#.WATCCvmLTIU>

に画像と解説

・「レ・フラグマン・ドゥ・エム」(frgm フラグム) は三人の製本家と一人の箔押し師によるユニッ

　ト

＊日本のグロリエ本蒐集家　気谷誠　について

　・気谷誠　愛書家ジャン・グロリエの旧蔵本について　『日仏図書館情報研究』３２号p11-16　2006年

　・石川県出身。図書館勤務のかたわら美術史、書物文化史を研究。2004年ころから2008年まで三重大学附属図書館情報管理課長、埼玉大学図書情報課長等の職にあった。2008年肝臓がんと診断されると蒐集した西洋古書を整理し始め、自身のブログ「ビブリオテカ・グラフィカ」

<http://bibliotheca-g.jugem.jp/?cid=11>

にそれらの顛末を書いている。その蔵書のなかでも注目されるのはジャン・グロリエ旧蔵本　『アンブロシウス著作集』(1538年)。2009年4月16日、気谷自身の希望通りパリで競売にかけられる。

　　　2008年9月22日没。享年54歳